ご 挨 拶

滋賀県立大学理事長・学長　**大 田　啓 一**

工学部学友会第三回総会の開催をお慶び申し上げます。今回の総会は学生主催の学園祭「湖風祭」開催中に設定されており、また本学同窓会「湖風会」と同日開催となっています。11月12日はさぞ活気に溢れた一日になるであろうと思っています。

さて滋賀県立大学は1995年4月に開学しましたので、現在22年目を歩んでいることになります。また本学は2006年に法人化され、他の国公立大学と同様に6年毎の中期計画期間を設け、期間内における大学の目標と計画さらには毎年の年度計画を定めて活動を続けてきました。今年度は第二期中期計画期間（2012～2017年）の5年目にあたります。

今期の取り組みにおいて強く意識したのは、本学の使命は何かということです。それは言うまでもなく、滋賀県の知の拠点として地域に貢献することですが、これを具体的な取り組みで示すことを心掛けてきました。その取り組みというのが、文科省の「地(知)の拠点整備事業（COC)」と「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋)」であり、地域産官学連携研究であり、また学生の海外学習の推進です。

COC（2013～2017年）は学生が地域を深く理解する地域志向教育と、湖東の地域課題への取り組みを中身としています。一方、COC＋（2015～2019年）は卒業生の地元定着を促す事業で、五年後には卒業生の県内就職率を10ポイント上げることを目標として掲げています。二つの事業とも本学の使命にストレートに関わる事業であり、滋賀県をはじめ湖東の5市4町、企業、県内他大学との連携で推進しています。

COCとCOC＋は学生と地域との結びつきが主題であり、また地域産官学連携研究は大学が企業や行政と組んで地域産業を発展させる事業です。従ってこれらが本学の使命である地域貢献と直結することは容易に理解されますが、学生の海外学習の推進は一見するとこれとは縁遠いように見えます。しかし急速なグローバル化の下では事情が違ってきます。

今日、企業の海外取引や海外進出は増え、インバウンドも増え、教育現場でも地域社会でも国際化が進んでいます。このような状況下で地域の各方面において本当に頼りにされるのは、世界から地域や事業所を俯瞰してその方向を定め、必要なら世界のどこにでも飛んでいき、また異文化摩擦についてはその折り合いをつけることができる人物です。そのためにはどうしても海外に出て勉強してくる必要があります。COC、COC＋、地域産官学連携と同様に、学生の在外学習も結局は地域貢献につながるものです。

本学ではそんな学生を育てるための「未来人財基金」を設立しており、皆様の寄付をお願いしています。どうぞこちらにもご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご 挨 拶

湖風会会長　**岡 田　定 一**

「工学部学友会」第３回総会の開催おめでとうございます。

今年は、統合同窓会「湖風会」が設立されて10周年となります。その10周年記念式典の日に合わせて「工学部学友会」総会を開催していただきましたこと、大変嬉しく思っております。平成28年11月12日に10周年記念式典を挙行することは、今回初めて発行する同窓会名簿購入依頼文書等にも記載しておりましたが、式典参加の案内状は、「湖風会」総会構成員の評議員をお願いしている800名弱の方々へしか発送できておりません。「工学部学友会」総会に参加していただいた方々には、引続き午後からの「湖風会」設立10周年記念式典にもご参加くださいますようお願いいたします。

「湖風会」では、住んでいる地域を単位とする地域支部と縦系列の学部支部とを組織して、卒業生の親睦と後輩学生たちの育成に寄与することと致しております。

地域支部といたしましては、近畿支部、東海支部、滋賀支部が組織されております。

学部支部につきましては、工学部学友会の設立を嚆矢として、平成27年６月に環境科学部支部、同年11月に人間科学部支部、本年４月に人間看護学部支部が設立され、全学部支部が揃いました。

湖風会設立以来10年、漸く同窓会の組織は形づくられましたが、今後の課題は、働き盛りで、忙しい後輩達に如何に同窓会活動に参画して貰うかにあると考えています。今しばらくは、旧短大卒業生の我々が中心となって動かねばならないでしょうが、大学の先生方に仲立ちをお願いして、学部卒業生たちとの連携を図って頂きたいと願っております。